

日本科学史学会2014年度総会・第61回年会プログラム（決定版）2014. 4. 30

会場：酪農学園大学（北海道江別市文京台緑町582-1）

研究発表講演要旨集原稿

2014年5月24日（土）

9：00受付開始（中央講義棟1階ロビー）

9：40-12：10 一般講演（1）（A会場、B会場、C会場、D会場）

中央講義棟会場 A:C1-201, B:C1-202, C:C1-301, D:C1-302

12：10-13：00 昼休み

13：00-14：20 一般講演（2）（A会場、B会場、C会場、D会場）

14：30-16：40 特別講演（一般公開）（中央館1階学生ホール講堂）

「アフロ・ユーラシアの乾燥・半乾燥地域の生態・環境の変動と人間のなりわいについて」

酪農学園大学農食環境・環境共生学類 環境リモートセンシング学教授 星野弘方氏

16：50-18：20 総会（中央館1階学生ホール講堂）

18：30-20：30 懇親会、日本科学史学会賞授与式（JR 新札幌駅シェラトンホテル札幌2階懇親会場「パステル」）

2014年5月25日（日）

8：40受付開始（中央講義棟1階ロビー）

9：00-10：20 一般講演（3）（A会場、B会場、C会場、D会場）

10：30-11：50 一般講演（4）（A会場、B会場、C会場、D会場）

10：30-11：50 ミニシンポジウム（中央館1階学生ホール講堂）（一般公開）

「炭鉱遺産の現況と将来展望」

基調講演「NPO空知炭鉱の記憶事業団の活動史と今後の課題」（札幌国際大学教授吉岡宏高）

12：00-14：30 シンポジウム（1）（一般公開）

S1（A会場）「エネルギー・環境問題に関する科学技術と社会の現在史に向けて」

S2（B会場）「新たな「放射線暗線神話」～今、歴史から何を学ぶべきか？」

S3（C会場）「19世紀ヨーロッパのポピュラーサイエンス」

14：40-17：00 シンポジウム（2）（一般公開）

S4（A会場）「高等教育の新たな展開と科学技術を対象とした人文・社会科学の役割」

S5（B会場）「近代国家と河川管理」

S6（C会場）「科学史とインテレクチュアル・ヒストリーの挑戦」

2014年5月24日（土）一般講演午前の部（一般講演（1）） 9：40-12：10

<A会場：中央講義棟2階C1-201(旧C20)教室>

9：40 A01 日本における出生前スクリーニング検査ガバナンスの課題 松原洋子

10：00 A02 20世紀第四・四半期の米国における科学技術政策と大学の変容、何が問

	題か	
		木原英逸
10:20	A03 昭和初期の工業博物館設立運動	馬淵浩一
10:40	A04 カリフォルニア大学の戦時体制—研究契約を中心に (10分間休憩)	日野川静枝
11:10	A05 国産最古の35ミリ精密カメラの復元と分析	森 亮資
11:30	A06 米国のエネルギー—建築技術の発達をめぐる諸要素のせめぎあい—パッシブ 技術 VS アクティブ技術、R&D VS 市場、研究者 VS 居住者、連邦 VS 地 域	託間直樹・中島秀人
11:50	A07 中国における高額医療保障制度改革について—透析治療と腎臓移植を例 として	金 月

<B会場：中央講義棟2階C1-202(旧C21)教室>

9:40	B01 科学的リテラシーの定義を巡る3つの不整合	神林信之
10:00	B02 財団法人による学術研究助成の実際—第二次世界大戦終戦前後の斉藤報恩 会を事例として	米澤晋彦
10:20	B03 明治、大正、昭和期のわが国における実験科学的的研究方法の受容：精 神物理学の創始者フェヒナーの実験美学が普及した経緯を中心に	岩淵 輝
10:40	B04 18世紀英米医学へのニュートンの隠れた影響—啓蒙主義と医学	高野 泰
	(10分休憩)	
11:10	B05 戦時下「国民生活科学化協会」の活動(2)	北林雅洋
11:30	B06 フランシス・ベーコンの天界論—永遠と自然	下野葉月
11:50	B07 武谷三男(1911-2000)の思想形成	八巻俊憲

<C会場：中央講義棟3階C1-301(旧C30)教室>

9:40	C01 ウィリアム・ヒューエルの科学観	勝屋信昭
10:00	C02 世界結晶年に寄せて—黎明期における電子線回折と電子顕微鏡の相反	黒田光太郎
10:20	C03 石油化学工業におけるプロセス制御技術の高度化	中村真悟
10:40	C04 アスベストに代わる建材の開発・高橋 輝	本庄孝子
	(10分休憩)	
11:10	C05 戦後主体性論争再考—技術論との連関から	金山浩司
11:30	C06 エネルギー自立地域の可能性	上園昌代

<D会場：中央講義棟3階C1-302(旧C31)教室>

9:40	D01 中国四川省における天然ガス自動車の普及促進政策に関する研究	李 雱
10:00	D02 生命操作批判現代史掘起しの試み	林 真理
10:20	D03 日本の新エネルギー開発の社会史的研究—水素エネルギーを中心として	

森田満希子

10:40 D04 カルビン・ムーアズと1940年代の情報検索システム開発 杉本 舞
(10分休憩)

11:10 D05 冷戦期アメリカの「日本の心理戦計画」と日本のテレビジョン放送導入の
関係の考察 奥田謙造

11:30 D06 パラメトロン用記憶装置の開発 小山俊士

11:50 D07 明治初年にわが国に導入されたスミソニアン気象観測法(2) 財部香枝

2014年5月24日(土) 一般講演午後の部(一般講演(2)) 13:00-14:20

<A会場:中央講義棟2階C1-201(旧C20)教室>

13:00 A08 美作国中村家の和算史料について 佐藤賢一

13:20 A09 和算における帰納法について 真島秀行

13:40 A10 「国際四元数協会」と協会が近代的ベクトル解析の確立に果たした役割
益田すみ子

14:00 A11 ダフィット・ヒルベルトとカント哲学:ヒルベルト数学手帳の分析から
橋本雄太

<B会場:中央講義棟2階C1-202(旧C21)>

13:00 B08 日本各地の授業/教案の筆記から確証する明治中期数理教育の新知見
小林昭三・興治文子

13:20 B09 明治中期の騎西高等小学校児童筆記に記された簡易物理実験
興治文子・小林昭三

13:40 B10 日本で最初の理化学実験指導書『理化小試』の原著者 LeRoy, C. Cooley につ
いて 高橋 浩・赤羽 明・所澤 潤・玉置豊美

14:00 B11 後藤牧太他著『小学校生徒用物理書』の使用実績—群馬県吾妻郡の場合
赤羽 明・所澤 潤・玉置豊美・高橋 浩

<C会場:中央講義棟3階C1-301(旧C30)>

13:00 C07 戦後日本の個別科学史:数学史の取り組まれ方とその時代区分
中根美知代

13:20 C08 日本における地学史研究の変遷 矢島道子

13:40 C09 日本における生物学史関連書籍の出版と大学における講義 溝口 元

14:00 C10 武谷三男と坂田昌一の交流—「科学史研究所」創設の提案と武谷の博士論
文について 雨宮高久・中根美知代・植松英穂

<D会場:中央講義棟3階C1-302(旧C31)>

13:00 D08 日本語版ローレンツ『物理学』の成立経緯とその特長 有賀暢迪

13:20 D09 文化的資源としての科学論争:戦後日本のルイセンコ論争と遺伝学者
飯田香穂里

- 13:40 D10 「神経」の発見—人体の中樞器官をめぐるヘレニズム期からローマ期にかけての論争史 今井正治
- 14:00 D11 ウイルスは非生物か? 中学生が考えたウイルス像 佐藤利夫

14:30—16:40 特別講演

<特別講演 中央館学生ホール講堂>

講師：酪農学園大学 農食環境群・環境共生学類 環境リモートセンシング学教授 理学博士
星野仏方 氏

演題「アフロ・ユーラシアの乾燥・半乾燥地域の生態・環境の変動と人間のなりわいについて—リモートセンシング技術を用いたアプローチ」

2014年5月25日（日）一般講演午前前半の部（一般講演（3））9:00—10:20

<A会場：中央講義棟2階C1-201（旧C20）教室>

- 9:00 A12 災害と科学をめぐる記憶と忘却 金凡性
- 9:20 A13 『坪井誠太郎資料』の日本地質学史研究における重要性 栃内文彦
- 9:40 A14 久米邦武が『米欧回覧実記』で活用した地理書（その7：地理及び気象論）
福川知子
- 10:00 A15 中根元圭と禁書令の緩和 小林龍彦

<B会場：中央講義棟2階C1-202（旧C21）>

- 9:00 B12 地球惑星科学からみた新城新蔵 青木滋之
- 9:20 B13 科学者が歴史に出会うとき—新城新蔵と中村新太郎における科学史研究の意味
山田俊弘
- 9:40 B14 アル・フワーリズミーの『ジャブルとムカーバラ』 楠葉隆徳
- 10:00 B15 バースカラー一世の渾天儀について 呂 鵬

<C会場：中央講義棟3階C1-301（旧C30）>

- 9:00 C11 ガリレオ『星界の報告』における月の図版 伊藤和行
- 9:20 C12 エウクレイデス『原論』第9巻：真正性への疑問 斉藤 憲
- 9:40 C13 藤沢利喜太郎と統計学 上藤一郎
- 10:00 C14 『楊輝算法』（1275年）とその写本 城地 茂

<D会場：中央講義棟3階C1-302（旧C31）>

- 9:00 D12 西脇安による欧州各国へのビキニ被害調査報告（その三） 山崎正勝
- 9:20 D13 1950年代における旧ソ連邦から中国への核技術輸出について—『イーゴリ・クルチャートフ学術著作集』第6巻所載の書簡を糸口に 市川 浩
- 9:40 D14 物理学者と戦時下の秘密兵器開発—海軍牛尾実験所遺構を中心に
河村 豊
- 10:00 D15 民間航空機産業における技術開発とアフターマーケット 山崎文徳

2014年5月25日(日) 一般講演午前後半の部(一般講演(4)) 10:30-11:50

<A会場:中央講義棟2階C1-201(旧C20)教室>

- 10:30 A16 力学入門書における運動学(Kinematics)の独立 塚本浩司
10:50 A17 NHK学校放送理科番組における科学・理科教育観の変遷 吉岡有文
11:10 A18 京都大学物理学教室旧蔵の分光機器群と原子スペクトル研究
永平幸雄・加藤利三
11:30 A19 工部大学校終焉に見る明治日本の高等技術教育論 和田正法

<B会場:中央講義棟2階C1-202(旧C21)教室>

- 10:30 B16 問題の解法の継承関係から見た18世紀前半の力学形成—ヨハン・ベルヌーイを中心に 野澤 聡
10:50 B17 三村剛昂と理論物理学研究所 小長谷大介
11:10 B18 コリン・マクローリンの力学の背景思想—完全弾性体同士の衝突における活力保存の証明に見るニュートンの力学の方法 工藤璃輝
11:30 B19 ニュートン光学における実験精度の向上を評価する 多久和理実

<C会場:中央講義棟3階C1-301(旧C30)教室>

- 10:30 C15 20世紀初頭におけるアンサンブル理論の基礎について 稲葉 肇
10:50 C16 プリンキピアにおける「向心力」の導入とその定義の変遷 杉本 剛
11:10 C17 辻哲夫の物理学史研究の立場 八木江里

<D会場:中央講義棟3階C1-302(旧C31)教室>

- 10:30 D16 1950年代の原発の安全審査について 高橋智子
11:50 D17 フランスにおける放射性廃棄物最終処分研究の歴史 小島智恵子
11:10 D18 原子核研究所「田無問題」における研究者と地域住民 伊藤憲二

10:30-11:50 ミニシンポジウム

<ミニシンポジウム 中央館学生ホール講堂>

テーマ「炭鉱遺産の現況と将来展望」(炭鉱遺産の利活用事業)

企画:山田大隆(酪農学園大学教授)

基調講演「NPO空知炭鉱の記憶事業団の活動史と今後の課題」

講師:吉岡宏高(札幌国際大学教授)

コメンテーター(青木隆夫、石川孝織)

12:00-14:30 シンポジウム(1)

1. 一般シンポジウム(A)<A会場:中央講義棟2階C1-201(旧C20)教室>

S1「エネルギー・環境問題に関する科学技術と社会の現在史に向けて」

吉岡斉(代表)・綾部広則・川野祐二・黒田光太郎・劉晶

2. 一般シンポジウム(B)<B会場：中央講義棟2階C1-202(旧C21)教室>

S2「新たな「放射線安全神話」～今、歴史から何を学ぶべきか？」

藤岡毅(代表)・山内知也・市川浩・中尾麻伊香・柿原泰・林衛

3. 一般シンポジウム(C)<C会場：中央講義棟3階C1-301(旧C30)教室>

S3「19世紀ヨーロッパのポピュラーサイエンス」

伊東剛史(代表)・石橋悠人・桜井文子・巽由樹子

14:40-17:00 シンポジウム(2)

4. 一般シンポジウム(D)<A会場：中央講義棟2階C1-201(旧C30)教室>

S4「高等教育の新たな展開と科学技術を対象とした人文・社会科学の役割」

中村征樹(代表)・標葉隆馬・飯田香穂里・伊藤憲二・菊池好行・
中尾央・平田光司・長谷川真理子・川本思心・大津珠子・斉藤健・
杉山滋郎・滝沢麻里・出村抄代・早岡英介・石村源生

5. 一般シンポジウム(E)<B会場：中央講義棟2階C1-202(旧C21)教室>

S5「近代国家と河川管理」

中澤聡(代表)・隠岐さや香・中村晋一郎・沖大幹

6. 一般シンポジウム(F)<C会場：中央講義棟3階C1-301(旧C30)教室>

S6「科学史とインテレクチュアル・ヒストリーの挑戦」

柴田和宏(代表)・菊池原洋平・柴田和宏・東慎一郎